

平成 22 年度宮城県支部定期総会の開催について

平成 22 年度麻布大学同窓会宮城県支部の総会を 6 月 5 日（土）本部から西田利穂先生（昭和 51 年卒）を来賓としてお招きし、仙台駅前の「ホテルモントレイ仙台」にて開催しました。総会に先立ち、長年当支部の活動を指導され、また学術面においても麻布の名前をおおいに高めたご功績に対し、前支部長の武田武雄先生（昭和 31 年卒 獣医学博士）に本部紫野会長から感謝状が授与されたので伝達をおこないました。議事は、会則に従い佐藤信嘉支部長（昭和 36 年卒）が議長となり、つつがなく進行されました。今年は、2 年に一度の当支部の役員改選でありましたが、全員留任ということで選出されました。話題提供ということで、4 月に発生した「宮崎の口蹄疫」について佐藤（昭和 51 年卒）が概説いたしました。参加者から時宜を得たテーマであると絶賛されました。さらに、本部から依頼のあった宮崎県に対する「義援金」の取扱について全会一致で承認されました。その後、懇親会にうつりました。参加者は、15 名と例年並みの参加ではありましたが、西田先生の同級生が 5 名参加し、高歌放吟し、夜も更けるのも忘れ、盛り上がる事が出来ました。同窓会のあり方や支部の同窓会の活性化について種々議論されています。宴会文化に対する若い卒業生や女性会員の忌避や不満を唱える声があるとのことも承知しております。しかしながら、多くの先輩が築き上げた「麻布魂」を後輩に引き継ぎ、継続していくことは今のようない時代こそ重要ではないかと考えています。世代を超えた同窓生が一堂に会し、昔を振り返り未来を語り、こそ地道ではありますが、大事ではないかと考えています。さらに開業している先生方への最新獣医療の照会や文化活動も計画しています。こうしたささやかなではありますが、活動を継続していくを通じ、母校の発展を御祈念し、その成果をお祝いしながら、今ある喜びを大事にしていきたいモノだと考えています。



（事務局 佐藤俊郎 昭和 51 年卒）